

■……景気の動向を探るのに一番簡単なのは株式市場の動き。さる11月15日の東京株式市場は1万5100円と5月以来の高値水準になりました。この1週間の平均株価の上げ幅はなんと1079円というから「万歳」を思わず叫んだ人も。アメリカの量的金融緩和が長期化し、株式市場への資金流入が続くと期待する向きが多かったからでしょう。

■……この株高に連動してか大手銀行5グループも、08年のリーマン・ショック以降では最高の純利益としかし銀行本体による融資に反社会的勢力との取引きがあった、と大騒ぎ。「反社会的勢力」とはこれいかに。主義主張、信条・イデオロギーでそぐわない連中のことではなく、単に「暴力団」「ヤクザ」のことなんでしょう。ヤクザが看板や目印を掲げているわけでもなし、賭博開帳などの違法な行為ぐらいで、あとは普通の「商売人」、資金も必要でしょう。「反社会的行為」といえば政治家も財界人もそう威張れたものではないでしょう。

■……「特定秘密保護法」が動き

出しました。防衛、外務の世界にはさぞ多くの「秘密」があることでしょう。一般の人間でも「プライバシー」や他人に知られたくない秘密はたくさんあるはず。法に人権を守られなくてはならない事情、情報も多くあります。しかし逆に「マックレイキング」―悪を暴く、とくにアメリカの暴露報道に代表されるジャーナリズムの役目は益々重要になります。軽薄なテレビ屋に毒されない真のジャーナリストが育ってほしいもの。

■……同志社大の浜矩子教授が「グローバルジャングルを共に生きる」をテーマに講義しています。そこで、アジア諸国からの留学生たちは「ハングリー精神に満ちている」と指摘、それに引き換え日本人学生は食欲さに欠ける、とか。日本語からは「弱肉強食」の表現も「死語」になつて久しい。成熟経済大国におさまっているせいなのでしょうが、「グローバルジャングル」はそう簡単に消えていかないと思えますがね。

■……隣国韓国のあの女大統領中国に行つて安重根（伊藤博文暗殺犯人）を英雄視する余り、暗殺現場のハルピン駅（中国黒竜江省）に記

念碑を作るよう働きかけたとか。いやはや女の執念というべきか。朴槿恵大統領は親日家だった元大統領の娘のはず。中国の支援を仰ぎ、反日感情に徹して韓国世論を引きつけようという算段なのでしょうが。

■……今、テレビや新聞で「顔も見たくない」人物は「朴槿恵」と「みのもんた」という人が増えています。みのもんたの「バカヤロツ会見」なんて現代のテレビ番組を象徴するバカげたシーン。息子の不祥事からむ話題なのでしょうが、採用人事から何からすべて、コネだらけのテレビ界で威張りちらした揚げ句のぶさいくさ。これまで芸人だけでなく政治家や評論家連中の中にもこのタイプが大勢いました。小沢一郎、田原総一郎、ビートたけし、橋下徹、猪瀬直樹など。あくまで見る方の主観でしょうが、そろそろテレビ屋も登場人物の面構え（つらがまえ）を考えたら……。

■……関西地方のある海辺で、実験飼育中のイルカがごみのビニール袋を飲み込み呼吸困難に。自然を大切に。ゴミを何処にでも捨てる人間罰として偽装表示の食べ物を口にしてるように見えます。

月刊公論 MONTHLY  
KORON

1月号 第47巻1号

平成26年1月1日発行 毎月15日発売  
定価890円(本体848円) 送料92円

発行人  
発行所

大 中 吉 一 編集人 田崎義信 土井正彦  
株式会社財界通信社  
〒160-0008東京都新宿区三栄町25ボナフラワービル  
TEL.03-5379-5611代、FAX.03-5379-5616

印刷所  
取次店

株式会社廣済堂  
トーハン/日本出版販売/大阪屋/栗田出版販売

●直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。  
●万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。